



NEWS RELEASE

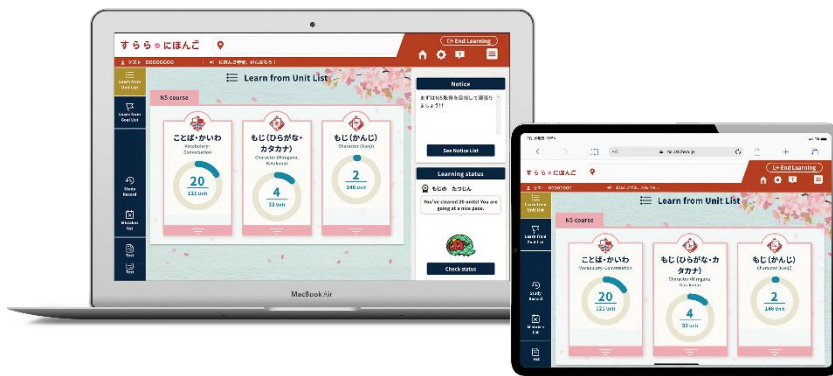
株式会社 すららネット
2026年4月28日

映画「学校」の舞台、東京都荒川区立第九中学校夜間学級で 日本語学習 ICT 教材「すらら にほんご」導入 夜間中学における日本語教育の実践事例として

AI を活用したアダプティブな対話式 ICT 教材の開発と提供を行う株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役：湯野川孝彦）の日本語学習 ICT 教材「すらら にほんご」が、2026年4月から荒川区立第九中学校夜間学級で導入され、外国ルーツの生徒たちが利用を開始しました。

本取り組みは、増加する外国ルーツの生徒への日本語教育課題に対する、夜間中学における実践事例の一つであり、全国の夜間中学で着実に採用数が増加しております。

すらら にほんご



日本 e-Learning 大賞
日本語教育特別部門賞受賞

夜間中学の現場から見える、日本語教育のリアル

近年の調査でも明らかになっている通り、国内の学校現場では、家庭で日本語以外の言語を主に使用する児童生徒の増加に伴い、日本語でのコミュニケーションや教科学習に困難を抱えるケースが増えています。特に夜間中学では、多様な背景を持つ生徒が在籍し、学習経験や言語習熟度の差も大きく、個別対応の必要性が一層高まっています。

一方で、日本語指導を専門とする教員の確保や、一人ひとりに応じた指導体制の構築は容易ではありません。十分な日本語力を身につけられないまま学年が進むことで、学習理解の遅れや学校生活への不安、自己肯定感の低下につながることも指摘されています。

こうした課題を背景に、日本語学習を継続的に支える仕組みづくりが、教育現場における重要なテーマとなっています。

「話せる」と「教えられる」の間にある壁を越えて

映画の舞台にもなった夜間中学で模索する、日本語教育と ICT 活用の挑戦

～荒川区立第九中学校 夜間学級 歳納 隼人先生～

夜間中学の現場で実際に日本語指導に向き合う教員は、どのような課題を感じているのか。同校で指導にあたる歳納隼人教諭は、次のように語ります。

「山田洋次監督の映画『学校』の舞台となった荒川区立第九中学校夜間学級に配属されて、二年が経ちました。社会科教員として 16 年間勤めてきた私にとって、夜間学級で日本語指導を担当することは大きな驚きであり、同時に新たな挑戦でもありました。外国籍の生徒たちが懸命に日本語を学ぶ姿に応えたいと、日々授業づくりを模索する中で「すらら にほんご」と出会いました。日本語を話せることと指導できることは根本的に異なります。また、日本語は世界でも習得難易度が高い言語のひとつです。そのような状況だからこそ、生徒たちが日本での生活に必要な日本語力を着実に身につけられる学習環境を整えることが、教員としての責務だと感じています。「すらら にほんご」の導入は、その学びの質を担保する一つの確かな基盤になると確信しています。「わかる」「できる」「楽しい」を生徒たちに実感してもらえるよう、ICT と教員としての関わりをいかに組み合わせるか、その模索はこれからも続けてまいります。」

ICT で実現する、個別最適な日本語学習

「すらら にほんご」は、「もじ・ことば・かいわ」を体系的に学べる構成により、学習者が自分のペースで日本語を習得できる ICT 教材です。専門の日本語指導教諭がいない環境でも、音声読み上げや視覚的なナビゲーションを通じて、ゼロから「使える日本語」を身につけることができます。さらに、AI が学習履歴をもとに理解度を分析し、一人ひとりに適した問題や復習を自動で提示することで、無理のない学習の継続を支援します。指導者の業務負担を抑えながら、個別最適化された日本語学習を実現できる点も特長です。

現在は英語、クメール語、インドネシア語に対応しており、今後は中国語、ポルトガル語、フィリピン語、スペイン語、ベトナム語などへの多言語対応も順次進めていきます。

日本語理解から教科学習へ 学びの入り口を支える取り組み

今回の導入は、日本語指導における人的・時間的制約という学校現場の課題に対し、ICT を活用した学習環境を整えることで、すべての子どもに安定した学びの機会を提供する取り組みです。児童生徒が自分の理解度に応じて日本語を身につけることは、教科学習への円滑な参加につながるだけでなく、学校生活への安心感や学ぶ意欲の向上にも寄与します。

すららネットは今後も、「すらら にほんご」の提供を通じて、自治体や学校現場の実情に寄り添いながら、外国ルーツの児童生徒一人ひとりの学力の土台づくりを支え、学びの選択肢の拡充に取り組んでまいります。

あわせて、こうした取り組みは他の夜間中学にも広がりつつあり、各地の実践を通じて、その有効性を検証し、社会に向けて発信してまいります。

■日本語学習 ICT 教材「すらら にほんご」

「すらら にほんご」は、国内外の外国にルーツを持つ人々が、就労・留学・日常生活に必要な日本語を、楽しく・無理なく習得できる ICT 教材です。学習者のレベルに応じて、基礎から応用まで段階的に学べる構成となっており、書写機能を使って文字を書く練習も可能です。

また、意味を母語で確認しながら学習できるため、初学者でもゼロから一人で学び進めることができます。さらに、アニメーションキャラクターの登場やゲーミフィケーションの要素を取り入れ、学習意欲を高める工夫も多数搭載。世界中どこにいても、正しい発音で日本語を体系的に学べるのが特長です。現在は日本語能力試験の N5、N4 レベルのコンテンツがあり、英語、インドネシア語、クメール語を展開しています。

■株式会社すららネット

すららネットは、「教育に変革を、子どもたちに生きる力を。」を企業理念に掲げ、AI を活用したアダプティブな対話式 ICT 教材「すらら」「すららドリル」などを開発・提供しています。現在、国内の 3,100 校以上の学校や学習塾で導入され、約 26 万人の児童生徒が利用しています。全国の公立学校や有名私立学校、大手塾での活用が広がる一方、不登校や発達障がい、経済的困難な状況の子どもたちにも学習機会を届けることで、教育課題の解決に取り組んでいます。2017 年には、代表的な EdTech スタートアップ企業として東証マザーズ市場（現東証グロース市場）に上場しました。

- ・コーポレートサイト <https://surala.co.jp/>
- ・サービスサイト <https://surala.jp/>